

<交付金の算定におけるLRICモデルの適用方法について>

- IP網移行期間中のユニバーサルサービス交付金の算定については、当該期間中、PSTNとIP網が併存すること等、設備構成やサービス提供の実態及び移行スケジュールを踏まえた算定方法とすることが必要と考えます。
- 既に、IP網移行期における接続料に第8次PSTN-LRICモデルと第9次IP-LRICモデルを組み合わせた適用がなされていることを踏まえると、仮に、ユニバーサルサービス交付金にこれまでの整理を踏襲する形でLRICモデルを用いるのであれば、両モデルの組み合わせによる適用とすることについては、接続料算定との整合が図られるものと考えます。

<第9次IP-LRICモデル設備配置ロジックのモデル外補正について>

- FRTの設置台数をモデル外で補正することで、アクセス回線原価の増加を抑制する案が検討されているところですが、本来は、モデル内の算定ロジック等の見直しを図られる必要があると考えます。
- そもそも現実的には、LRIC方式が想定するように、需要減少に応じてリニアに設備量を減らしていくことは極めて困難であり、LRIC方式による算定は実態との乖離が大きいものとなっています。
- そのため、実際費用方式への転換も含め、ユニバーサルサービス交付金と接続料とを合わせて、固定電話の安定的な提供を確保するための検討が必要と考えます。